令和３年度第１回北九州市子ども読書活動推進会議　開催結果

１　開催日・開催方法

令和４年３月・書面会議にて開催

２　出席者（資料送付対象者）

北九州市子ども読書活動推進会議委員　山元委員他１３名

３　協議事項

（１）北九州市子ども読書活動推進会議会長及び副会長の選出について

【協議結果】

事務局案を承認（１４名）　・　事務局案を承認しない（０名）

よって、会長及び副会長について以下のとおり決定した。

役　職	氏　名
会　長	山元　悦子委員
副会長	河井　律子委員
副会長	上満　佳子委員

（２）「新・北九州市子ども読書プラン（第３次北九州市子ども読書活動推進計画）」の取組結果について

【委員からの主な意見（要旨）】

・「市立図書館における子ども１人あたりの貸出冊数」及び「読み聞かせボランティアバンクからの派遣件数」の令和２年度の実績が低いのはコロナの影響と言える。

・コロナの影響かもしれないが、令和２年度の実績が下がっているのが気になる。数値だけではなく読書活動の質的な向上を示す数値があればよい。

・コロナの感染拡大で苦慮した様子が伺える。

・一斉読書を実施する学校の割合が小学校で下がっている。朝自習などを活用して、実施できる学校が増えることを期待している。

・この期間に学校図書館職員が増えたことは大変望ましいことである。読書冊数や学校貸出図書セットの利用数の増加などにも関連していると考える。

・「市立図書館における子ども１人あたりの貸出冊数」、「「早寝・早起き・朝ごはん・読書カード」事業への認定こども園、幼稚園、保育所参加数」など、令和２年度の実績が下がっているのは、コロナの影響なのか。

・コロナの影響はあったのは分かるが、概ね目標を達成できていないと評価した方が良いのではないか。

・「はじめての絵本事業」については配布率の数字だけではなく、保護者に事業

の趣旨を理解してもらうため配布の際にどのような工夫を行っているのか知りたい。

・コロナ禍で学校内でのボランティアによる読み聞かせができない現状、それに代わる何かが必要だと感じる。

・学校図書館職員の配置について、配置されていない学校へどのような工夫をして対応することが有効なのか、今後の配置の方向性について知りたい。

・読書習慣・貸出冊数・読書好きの割合など、電子図書館や民間のオーディオブック等、デジタルの読書の選択肢が広がっている中、物理的な冊数だけではない把握や影響の方策・効果を把握する仕掛けも今後求められる。

・「不読率」が下がっているにもかかわらず、児童生徒の読書冊数が増えていないのは、選書のアドバイス等がうまく機能していない面があるのではないか。

・「学校図書館における地域・郷土コーナーの設置」について１００％となっており、魅力的なコーナーを作ることが読書冊数の増につながると考える。

（３）「北九州市子ども読書プラン（第４次北九州市子ども読書活動推進計画）」の取組状況（令和３年度）及び令和４年度以降の取組について

【委員からの主な意見（要旨）】

・「読書好きな子どもが輝く、交流・発信する場の提供」について、Web 会議システムを活用し、学校対抗のビブリオバトルを開催するなど、充実を図るべき。

・読書をすることで、将来の仕事や働き方にどのように役立つのかを伝える取組みがないと、自発的（積極的）な読書活動に繋がらない。

・電子図書館の取組みは素晴らしい。図書館経営の根幹に関わることであるので、図書館活動の中での位置付けやサービスの充実についてさらなる深まりが必要である。

・子ども図書館での「図書館謎解きイベント」はとても良いアイデアである。様々なイベントをきっかけに、親子で本に興味を持ってもらいたい。今後行う予定の「読み聞かせ動画の配信」もとても効果的だと感じる。

・幼児期に本に親しむ取組として、歯科衛生士を派遣する「子ども虫歯予防教室」のように、各園が「読み聞かせ体験を派遣依頼できる」制度を行ってもらいたい。

・「子ども司書養成講座」を行っているように、各園の図書担当教諭、保育士向けの司書養成講座を行ってもらいたい。

・どれくらい図書館に来てもらう、本を借りてもらう、何時間読書をしたというアウトプットが多い気がする。大事なことだが、小中学校の時に影響を与えるような本の推薦を行うなど、人間としての幅が広がるような機会を作ってあげることも大切である。

・多様な分野とのコラボイベントを開催する際には、読書や本に結び付ける取

組の展示や紹介等を行うなど、質の向上を図ることが必要である。
・読み聞かせボランティアバンクを有効活用する方法について検討すべき。
・各家庭での読書環境の取組事例を募集し、紹介してはどうか。
・秋の読書週間に合わせた時期に、市独自の「子ども読書の日」を制定し、取組を行ったことは良かった。
・読書好きな子どもから読書好きな子どもへ、読書好きな子どもからあまり本を読まない子どもへと子ども達自身が活動できる子ども図書館となるよう、大人がサポートする体制を整えるべき。
・子ども達が気軽に相談できるよう、子ども図書館のカウンターに返却窓口とは別に相談コーナーを設けてはどうか。
・コロナ禍で注目された“キャンプ”で読書、家族での時間が増えたことによるファミリー読書会などを促し、読書に対するイメージ向上を図るべき。
・「読書ボランティア」は、高齢者の地域貢献やコミュニティづくりの場の一つとしてもハードルが低く、参加を促す仕掛け、きっかけづくりをもっと広範囲に実施してもらいたい。
・「子ども電子図書館」に期待している。自分が読んでみんなに薦めたい本について、紹介文をウェブ上でポップにできるなど、情報交換できる場があればより良くなると思う。
・市政だより１月１日号の特集「年初めの一冊」は良い企画だった。今後は、保護者の体験談に興味のある方が多いと思うので、そのような事例を募集し、広報することを検討してほしい。子育て世代だけでなく、多くの市民に届けることができると、図書館の認知度アップや、子どもを図書館へ、子どもに本をと考える大人が増えるのではないか。
・「子ども司書養成講座」や「ジュニアサポーター」の活動は、もっとＰＲすべき。同世代の子どもからの発信は、子ども達にとって受け取りやすい情報となる。